

## ロシアに本県の食を

### 販路拡大へ7社商品紹介 新潟



県産加工食品のロシア市場開拓に向けて開かれた商談会―新潟市中央区

ロシア極東地方のバイヤーに県産加工食品をPRする商談会が18日、新潟市中央区で開かれた。しょうゆや日本茶などを扱う7社が商談に臨み、ロシア市場への販路拡大を目指した。

ロシア貿易を手掛けるJ・S・N（新潟市中央区）が、県の委託を受けて主催した。同社は11月、ウラジオストク市のレストランで約2週間にわたり、県産食材を使った料理などを提供する「新潟フェア」を開催予定

で、商談会にはフェアに参加する企業の代表や調理担当者の3社5人を招いた。

商談会は県内企業が待つテーブルを順番に回る方式で行われた。ホタテやかつお節など、複数の種類の和風だしを用意したフタバ（三条市）のテーブルでは、バイヤーらが真剣な表情で味の違いを吟味。「日本ではどのように使い分けるか」などと熱心に質問をしていた。

現地でレストランを展開するBSBメディア社のエドアルド・リャブキン代表は「ウラジオストクでは新潟はなじみ深い地域だが、食材が浸透しているとはいえない」と指摘。「製造方法にこだわりがあるなど興味深い品も多く、日本食だけでなくロシア料理にもどのようにアレンジできるか考えながら採用したい」と話した。